



楽しくパソコンに向う子どもたち



真剣に自分たちのホームページを作成している子どもたち



情報教育の公開授業（登別温泉小学校）

間」に教えています。

これから、情報技術の向上とともに、ますます充実した授業が期待できそうです。

しかし、その一方で、情報教育を進めるうえで、課題もあるようです。

「パソコンについて詳しい人材が不足しています。先生方の一人ひとりも自分の勉強や部活動を受け持つなど、パソコンの勉強まではなかなか手が回らない状況です。これから、情報教育を進めるためには、学校のネットワークを管理できる人やパソコンを教えることができる人の育成が課題でしょう。このパソコンに詳しい人材の不足は、市内の学校に限ったことではなく、全国的な傾向ですね」と北尾先生は、学校における情報教育の現状と課題を話してくれました。

パソコンを通して コミュニケーション

数年前まではパソコンといえば、大人でも使いこなすことが難しく、とても高価な道具。しかし今ではパソコンは職場だけでなく学校教育の現場でも使われ始めています。

私は、西陵中学校のパソコン部の活動と、市内でも情報教育に力を入れているという登別温泉小学校の公開授業を見に行きました。

西陵中学校のパソコン部は、現

在部員数が34人、週1、2回活動しています。「現在のクラブ活動は、パソコンに慣れるということと1番の目的として楽しく活動しています」と話すのはパソコン部部長の小笠原和輝さん。



小笠原和輝さん

「部員たちは、インターネットの検索や文章作成、表計算など思い通りに活動しています。インターネットを見ていて、欲しい情報がすぐに出てくるのが面白いですが、つついパソコンのゲームに走ってしまいが…」。

現在パソコンに夢中という小笠原さん。その姿から何の違和感もなくパソコンに向う世代が見えてきます。

次に、登別温泉小学校に行きました。そこには小学生たちがパソコンのディスプレイと向かい合っているという、昔の小学校とは違う風景がありました。

その日の授業は自分たちのホームページをつくるというもので、子どもたちはそれぞれに自分の作りたいホームページの内容を発表

し合い、そして実際に自分たちで書いたイラストなどを載せ、思い思いのホームページをスイスイと作成していました。私は小学生がここまでできるのかと、とても驚きました。

普段の授業と違って分からないところを分かっている子が教えてあげたり、先生に直接聞いたり、子どもたちが盛んにコミュニケーションをとっている姿がとても目につきます。子どもたちはパソコンによって、自分の言いたいことを主張し、分らないところは教え合うことの大切さを学んだのではないのでしょうか。

ルールやマナーを守り 創意・工夫ができる力を

パソコンやネットワークについては専門知識が必要で本格的に扱うのは容易なことではありません。しかし、今回、小・中学校の情報教育をレポートし、パソコンに向う子どもたちの楽しげな様子から、新たな時代の姿が見えて来たと実感しました。

パソコンはとても便利な新しいコミュニケーションの道具です。学校で情報通信技術の活用とパソコンを利用するうえで、ルールやマナーを学び、自分で考え、創意・工夫ができる力をしっかりと育ててほしいです。